

3歳児後期（11月頃～3月）

ねらい

- ◆ 友達への関心をもち、みんなで過ごすことを楽しいと感じる。
- ◆ 生活に必要な行動が分かり、自分から行おうとする。

《関わり》

親しみ
自己発揮
共感
調整
など

- ・生活や遊びの中で友達と一緒に過ごすことを喜ぶ。
- ・自分の気持ちや困っていること、してほしいことなどを自分なりの言葉や表現で保育者に伝えたり、保育者に支えられながら、友達に伝えたりする。
- ・友達のしていることに関心をもち、仲間に入ろうとしたり一緒に遊ぶことを楽しいと感じたりする。
- ・異年齢児の遊びに関心をもち、年長児に対する憧れを感じたり、まねたりする。
- ・自分の思いを表現して遊ぶ中で、思い通りにならないときがあることに気付く。

《自立》

自信
判断
身だしなみ
礼儀
など

- ・保育者に励まされながら様々なことに取り組み、できたことに喜びを感じる。
- ・生活や友達との関わりの中で、してよいことと悪いことに気付く。
- ・園生活に必要な身の回りのことなど、できることは自分でしようとし、できたことを喜ぶ。

《規範》

決まり
ルール
マナー
など

- ・安全指導や避難訓練を通して、生活や安全に必要な決まりがあることを知り、保育者や友達と一緒に行動する。
- ・遊びの中で、遊具や物の安全な使い方や簡単な決まりに気付く。
- ・簡単なルールのある遊びの中で、自分なりに動く楽しさを感じる。
- ・テーブルを拭いたり、食器を運んだりするなど、保育者の手伝いをして喜ぶ。

保育者の関わりで大切にしたいこと

- 遊びのコーナーや場の配置を工夫し、一緒にいたい友達と関われるようにする。
- 自分なりに思いを言葉や行動に表している姿を認め、安心して遊べるようにする。また、クラスの友達と一緒に活動する楽しさを味わえるようにする。
- 一人ひとりの思いを受け止めながら言葉にし、相手の気持ちに気付くようにしたり、相手に伝えたいことを一緒に言ったりする。
- 年長児の活躍している場面を捉え、保育者が感じたことをつぶやいたり、関心がもてるように幼児に声を掛けたりする。
- 幼児が身の回りのことを自分からやってみようとする姿やできるようになったことを、十分に認める。
- ルールがある遊びの楽しさを感じられるように、ルールを簡潔にしたり、イメージを伴って楽しめるようにしたりする。
- 物の取り合いや順番争いなどの場面では、双方の気持ちを受け止めた上で、順番や交代の必要性及び具体的な行動などを分かりやすく知らせていく。



家庭とともに

- 幼児の発達には個人差があることを伝え、一人ひとりの発達の様子を共通理解する。
- 家庭でも幼児の気持ちを受け止め、共感してもらえるように、幼児が様々な感情体験をしていることやその大切さを伝える。また、家庭での幼児の様子や、保護者が心配していることなどを知らせてほしいことを伝える。
- 自己主張や自立心が強くなるが、まだ、甘えたい時期でもあることから、園でも家庭でも幼児のありのままの姿を温かく受け止められるようにする。
- 自分でできた喜びが、幼児の自信につながるため、園で行っている、褒める、少し手助けをするなどの方法を、具体的に紹介する。
- 喜んで手伝っている姿を紹介するとともに、3歳児なりに役割をもって手伝うことの大切さを伝え、家庭でも機会がもてるように依頼する。

規範意識の芽生えを培うために、 家庭で大切にしたいことを考えましょう

～指導用スライド教材（※）の活用～

【目的】 幼児の規範意識の芽生えを培うために、家庭で行うとよいことを考えたり、具体的な方法について話し合ったりする。

【内容】

- 1 保護者会などの場でスライド教材を使いながら、保育者が説明をする。
- 2 それぞれの家庭で工夫していることや、困っていることなどについて、グループ（4人から6人程度）で話し合う。
- 3 グループで話したことを発表し、クラスで共有する。



※ 「乳幼児期を大切に～心と体の基礎を育てるとき～」
指導用スライド教材（東京都教育委員会 平成25年3月）
*P. 26及び巻末URL参照

こどものつぶやき

「いっしょにやる？」

ゆっくりペースのcちゃんが、初めて砂場でdちゃんに声を掛けました。クラスの中で、一緒に過ごしたい相手に出会ったり、「いっしょにやる？」と声を掛けたくなったりするのは、すてきなことです。友達とのつながりの始まりです。



あんな場面 こんな場面 (指導例)

ルールを感じながら、繰り返し楽しむ

3歳児11月

「オオカミと7ひきの子ヤギ」の話を、幼児の大好きな追いかっこごっこに取り入れました。

ヤギの家を作り、その中に入った子ヤギは捕まりません。そして、オオカミにタッチされたら、食べられたことにするという簡単なルールを決めました。遊びが始まると、E児は「ガオー」とオオカミになりきって追い掛けます。「キヤー」と逃げ回る子ヤギたちの中で、F児が転んで泣いてしまいました。張り切っていたE児も困っています。



ここがポイント！

- ゆるやかなルールの中で、保育者とのつながりを中心に、友達と遊ぶ楽しさを感じられるようにしましょう。

「じゃあ、もう一回しよう。」

保育者がそばに行くと、「Eちゃんが押したんだもん！」とF児。「押してないよ。タッチしたんだよ。」とE児。保育者は双方の思いを受け止め、「Fちゃん、痛かったね。Eちゃんは捕まえようとしてタッチしたのよね。でも、Fちゃんは転んじゃったね。」と声を掛けました。

すると、E児「ごめんね。」F児「いいよ。じゃあ、もう1回しよう。次はオオカミになる。」と言い、二人とも笑顔になり、再び遊びに戻っていきました。

〈他にもこんな姿が…〉

- 「トントントン。お母さんだよ。開けてちょうだい。」「お母さんはそんなガラガラ声じゃないよ。」と、お話の世界に浸って、やり取りを楽しんでいました。
- タッチされた後、「食べられちゃったところ、消毒しよう。」と体をさすり、「治った。じゃあ、今度はオオカミになろう。」と、再スタートしました。
- 保育者が幼児の様子や走る速さに合わせて、追いかけたり追いかけられたりすることで、繰り返し安心して楽しむ姿が見られました。

- 自分なりの言葉や行動で思いを表しながら遊ぶことは、友達と一緒に活動する楽しさを感じることに繋がります。
- 楽しく遊ぶ中で、ルールを知り、守ることが大切だと感じる経験を重ねることができます。

今日は散歩に行く予定です。保育者が「お散歩に行きますよ。片付けて、お散歩の準備をしてね。」と声を掛けます。幼児は「やったあ。どこ行くの?」と喜んでいますが、「春を見付けに公園に行きましょう。」と保育者が言うと、ほとんどの幼児は自分から片付けをし、排せつを済ませたり、帽子をかぶったりなど、自分で準備を始めています。

そのような中で、G児はブロック遊びを続けています。保育者が何度か声を掛けますが、なかなか気持ちが切り替わりません。



ここがポイント!

- 子供が自分なりの見通しをもって、「自分でできる」と感じられるようにしましょう。

「間に合ったあ。」

保育者は、G児のそばに行きました。「Gちゃん、今日公園に行ったら何をしましょうか。」と聞くと、ブロックで遊びながらも「滑り台する。」と答えました。その言葉からG児の期待を感じた保育者は、「いいねえ。じゃあ、準備をしましょう。一人でできる?それともお手伝いする?」と聞きました。G児は得意気に「できるよ。」と言い、ブロックを片付けました。保育者は、G児が準備する様子を見守ります。必要に応じて「帽子もかぶれましたね。次は何かな…。そろそろ出発できそうですね。」など、G児が次の見通しをもちながら、「自分でできている。」と感じられるような声掛けや手助けをしました。準備ができたG児は「間に合ったあ。」と笑顔で列に並びました。

〈他にもこんな姿が…〉

- 「先生、今日は上着着る?」と幼児が聞きました。保育者は外に出て、「風が少し冷たいですね。どうしますか。」と問い掛けました。一人ひとりが考えながら「着ていく。」と決めています。生活の中で繰り返してきたことで、3歳児なりに見通しをもって考えるようになってきています。

- 生活や活動に見通しをもつことは、今必要なことを、自分で考えて行うことにつながります。
- 毎日の生活の中で、繰り返し同じ手順で行うことで、必要なことが身に付きやすくなります。



使ってみませんか？ 〈資料等〉

◆ 家庭での取組を一緒に考える

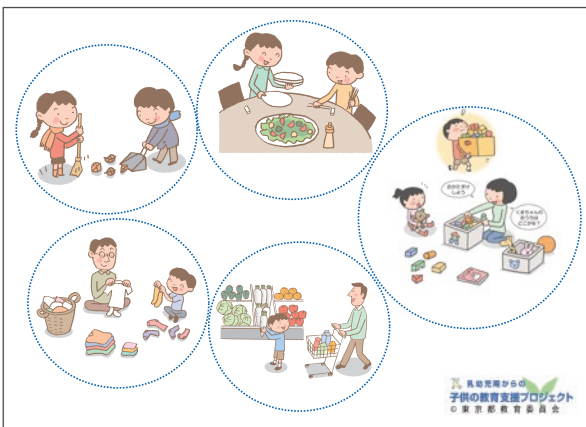
家庭は子供にとって安心できる居場所であり、基本的な信頼感や思いやり、規範意識等、人との関係を作るための基礎が育まれる大切な場所です。幼児の生活は、家庭を基盤として地域社会を通じて次第に広がりをもつものであるため、家庭との連携を十分に図ることが重要です。連携に当たっては、保護者との情報交換の機会を設けたり、保護者と幼児が共に活動する機会を設けたりすることなどを通じて、保護者の幼児期の教育に対する理解が深まるように配慮することが望めます。

「乳幼児期を大切に～心と体の基礎を育てるとき～」

指導用スライド教材Ⅰ～Ⅵ（東京都教育委員会）の活用

本スライド教材は、乳幼児期からの子供の発達や望ましい生活習慣等について、保育者が保護者に話をするときに使用することができるものです。スライド教材には、「スライド」及び「指導の手引き」（各スライドの趣旨、解説、投げ掛けの例など）が掲載されています。

（各資料は巻末に掲載したURLからダウンロードすることができます。）

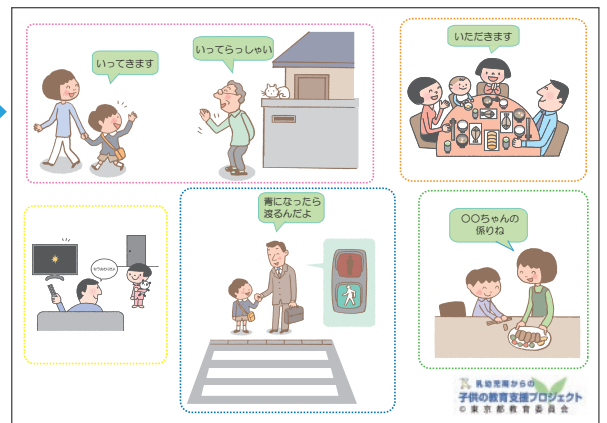
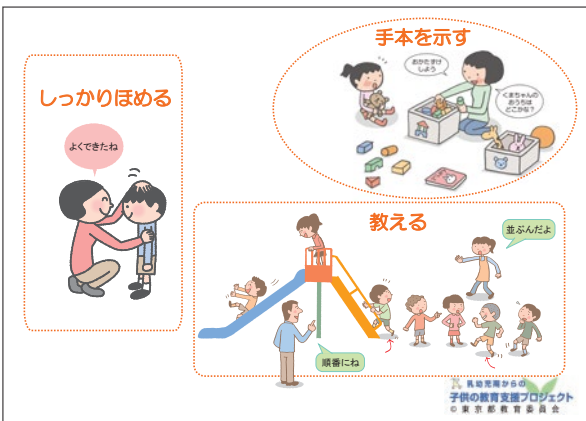


スライド教材Ⅵ

「豊かな心と社会性の成長・発達のために」
から例示

スライド11 我が家のお手伝いを決めよう
～生活の体験は、自立への準備、文化の伝承～

スライド17 生活のルールは我が家から



スライド18 よい行動を教えることは、
子供への大切な贈り物です

◆ 保護者同士のつながりを結ぶ

保護者が互いに親しみを感じて、気軽に話し、情報交換をすることは、安心して子育てをしたり、一人ひとりの幼児の成長をクラスや園全体の保護者で見守ったりすることにつながります。

〈お楽しみMAP〉

- 1 園周辺の簡単な地図を用意して、玄関など多くの保護者が見る場所に貼ります。
- 2 ふせん紙やシールなどを用意し、保護者や幼児の「おすすめの場所」を、記名して自由に貼ります。

例：タンポポがたくさん咲いています。
「白い靴下」を履いたネコが、いつもいます。
シイの実が落ちています。
ここから見る夕日は、最高！ など



- 3 保育者がすすんで「おすすめの場所」を貼ったり、情報を提供した方に話し掛け、周囲にいる保護者と話題をつないだりすることができると、より効果的です。

〈サイコロトーク〉

クラス懇談などの際に、保護者同士が気軽に話す機会を通して、親しみやつながりを感じられるように計画します。

- 1 あらかじめ、3～6人程度のグループに分かれておきます。
- 2 ウレタン積木などを利用して、大きなサイコロを作ります。各面に、話題にしたい項目を一つずつ記入しておきます。

例：好きな食べ物 好きな色 マイブーム 経験した部活動 など
※ 個人的な内容になるため、保護者同士の親しみ具合などに応じて、検討した上で設定します。

- 3 サイコロを転がし、出た項目について、グループごとに話し合います。
- 4 保育者は状況を見ながら、全体に紹介したり、各グループから発表するように働きかけたりして、必要に応じて内容を皆で共有します。

